

気をつけましょう

草

▼草生改良の準備を手ぬかりなく

牧草の播種期は、秋播きが良いのでそれに間に合うよう準備をしなければなりません。

県北部では8月下旬が播種適期です。クロレートソーダで野草を殺す場合は、播種期の少くとも1ヶ月前に散布しておきましょう。

▼家畜かぶの播きつけ

家畜かぶの播種適期に極めて短かい（5日間位）ので、地域に応じた適期を逃さないよう。早播きも良くない。

▼秋播飼料作物の計画を樹てよう

各自の経営規模、労力、頭数に応じて、経験をもとにし、より良い作付計画を今のうちに樹てておこう。

鶏

▼鶏を夏季の伝染病から守ろう

夏季の伝染病としては、コリーザ、ロイコチトゾーン病、鶏痘、慢性呼吸器病等があげられこれ等の伝染病は多羽数飼育の場合特に注意を要します。

これ等の伝染病から鶏を守るには投薬や、予防接種もさることながら先ず第1に大切なのは環境をよくしてやることです。密飼をさけ通風換気をよくして飼養施設を常に清潔にしましょう。

蚊を少なくするために周囲の汚水溜りには特に注意しましょう。病気の感染源となる病鶏の処分を適切にして見学者の立入りにも注意しましょう。

庇蔭樹等の防暑施設が通風、換気、採光のじゃまにならずに適切であるかどうかを再度検討いたしましょう。

豚

▼日射病と熱射病の予防

炎天下で豚を追い廻したり、直射日光で輸送又はケンカさせると日射病が起りやすく、熱射病は気温が急に上がった時、風通しの悪いむし暑い豚舎で起りますが、この2つは一緒に発病するが多い。

日射病の応急手当は、豚を日かげの風通しのよい涼しい場所に移し、頭や全身に水に浸した布をかけてやります。

豚舎内が風通し悪く、むしむししますと熱射病に犯され、快復までに1週間以上かかり、妊豚は流産することがありますから、豚舎内への直射日光をさけ、暑い日にはホースで床や豚に水をかけ涼しくしてやりましょう。

▼伝染病の発生防止

暑い時期は豚が弱り、伝染病に犯されやすい時期です。豚舎の出入口に消毒板を設け、完全消毒により豚コレラ等の伝染病発生防止を。